

第689回番組審議会報告

2024年6月4日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、川瀬慈委員、木戸哲委員、
小島幸保委員、津村記久子委員、増山実委員、安田真奈委員

■毎日放送出席者

虫明社長、酒井取締役、北野取締役、中野取締役、岸本制作局長、
長尾担当局長、水野プロデューサー、柴田コンプライアンス局長、
中西番組審議会事務局長

◆審議事項

テレビ番組「俳句×SDGsの未来教室」

(2024年4月28日(日) 12:54~13:54 放送)

【概要】

世界中で最も四季を大切にしてきた日本人。世界一短い文芸と言われる俳句が生まれて520年。5・7・5の17音で季節を愛でた結果、増えてきたのが季語です。しかし…日本人が大切にしてきた季語はSDGsの文脈で見ると全く別の現実が浮かび上がってきます。季語自体が絶滅の危機に瀕していたり、意味が変容していたり…。同じ言葉なのに、それぞれの背景を聞いた瞬間にまったく違うものに見えてきます。1年前から夏井先生と全国の学校で行ってきたSDGsの出張授業を1時間番組にして放送します。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *大変面白く拝見した。SDGs、資源の問題について、社会的問題を俳句という面白い切り口で夏井先生が魅力的な解説をされてずっと飽きずに最後まで見た。
- *SDGsというなかなか見てももらえないテーマに授業という形をとって、さらに人気の夏井先生の俳句を掛け合わせて興味を持って見てもらおうという着眼点がいいと思った。
- *夏井さんは毒舌キャラで感性を大事にする人、南さんは冷静で論理的でデータとかファクトをもとに物事を語る方、真逆のふたりが互いを引き立てていると感じた。

- * 「心に来る言葉の力がある」というが、マグロやサバの話やアパレル業界の話のインパクトが強過ぎて、俳句や言葉の力に該当する部分がいま一つ具体的に伝わってこなかった。
- * 味とか音とか手ざわりなど五感で何かを分析し、さらにグラフで可視化されているのがとても新鮮でわかりやすかった。
- * この番組におけるSDGsあるいはSDGsにまつわる文脈や背景に関するコンテキストが明確に最初に示されていないという印象を受けた。
- * 授業の中で生徒たちが誰ひとりとして質問をせず、議論もなかった。もっと先生と生徒がぶつかり合うという形にすれば、授業としても番組としてもさらに深まったのではないか。
- * 教室という設定では一方通行的なコミュニケーションになりがちで反論は出にくいのではないか。同じ教室でも円卓方式のような配置にすればかなり違うのではと思った。
- * 環境にいいという話でカポックという新素材が出てきたが、あれをつくるのに水をどれだけ使っているのか気になった。有利な情報はすごく強調するけど、比較が出てこないのが気持ち悪さが残った。
- * 漁師さんも、生き残り策としてあのような取り組みはすごくいいと思うが、消費者に個別配送すると結局車による環境への負荷がとてめかかるのではと思った。
- * 学習サイトの会社のパートが最後にとってつけたようにインサートされているのでもう少し工夫があってもいいのではないかと思った。
- * サバの問題で日本の漁師さんが捕獲し過ぎじゃないかと思いがちなところで、番組ではそうではないという問題提起がされていたのでほっとした。
- * レーダーチャートは、目盛りがこんなに飛び出るってどういうことと引っかけた。少しやり過ぎではないかと思った。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * 授業に関しては演出をかけないスタンスを取った。授業に急にテレビカメラが入ってきていて大人たちも聞いている状況で、少しよそ行きの感じになってしまったのかもしれない。
- * SDGsのデータについては調べれば調べるほど都合のいい数字がかなり出ていることが課題だと改めて感じた。この先SDGsに向き合う時にすごく大事な目線だと思う。
- * SDGsを学ぶというよりは、本来この言葉がなくても「これ、SDGsのことだよ」と思ってもらえるものが、まず一つの通過点だと思って作った。これからさらにオリジナリティのある企画として発展させたい。